

《保健科学教育部博士前期課程 保健学専攻》

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

・ディプロマ・ポリシーをさらに細分化している場合には、それを項目として用いることができる。

科目名		ディプロマ・ポリシー	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働能力】	【3. 豊かな人間力と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
			専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。	
全専攻系共通カリキュラム科目	生命倫理概論		○		◎	○	生命倫理学、臨床倫理学、社会倫理、個人情報保護、実験動物愛護等について概説できる。
	臨床心理学		◎		○	○	臨床心理学の基礎的理論・技法および今日的課題を説明できる
	社会医学・疫学・医学統計概論		◎	○		○	社会医学・薬学・歯学等に関して、授業目的に示した講義内容の理解が深まることを目標にする。
	英語論文作成法		○	◎		○	21世紀に医学、歯学、薬学、栄養学、保健学の各分野で活躍する人材は英語が堪能であることが要求される。本授業ではこれらの領域で用いられる独特の英語表現法に関わる基本的知識を修得することを目的とする。
	宇宙栄養・医学概論		◎		○	○	宇宙栄養学・医学の分野において、宇宙実験の申請に必要な知識や問題点が理解できる。
	生命科学の研究手法		◎			◎	医科学・生命科学研究に必須の初歩的技術が理解できる
	研究方法論		○		○	◎	報告された臨床研究結果の批判的解釈ができる。臨床第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ相試験のデザインについて理解し、プロトコロルの立案と遂行に関与できる。
	がんチーム医療実習		○	◎	○		がん医療にかかわる他職種の役割を理解できる。患者のケアに関して他職種との意見交換・討論ができる。他職種に専門的な助言ができる。チームとして行動できる。
	悪性腫瘍の管理と治療		◎	○	○	○	がんの検査・診断法、手術療法・放射線療法・化学療法などの治療法、さらに支持療法、緩和医療の state of the art について理解するとともに、がんの心理的・社会的側面についても理解を深める。
	医療情報学		○	◎	○	○	情報化とは何か、病院情報システムの概要、ならびにデータ解析の手法である "Data Mining" について理解する。文献、オンラインデータベース、インターネットを通じてがんの臨床と研究に関する情報検索と収集ができる。EBM、クリニカルパスの方法や意義について理解する。
	医療対話学(コミュニケーションスキル)		○	◎	○		がん患者と家族、医療チーム内スタッフとの良好なコミュニケーションを確立できる。がん患者と家族に好ましくない情報をスムーズに告知でき、必要に応じてカウンセリング、スピリチュアルケアを提供できる。
	医療倫理と法律的・経済的問題		○			◎	がん医療と臨床研究の遂行に必要な医療倫理、法律的問題、社会的・経済的について理解する。
	医療系分野における知的財産学概論		○			◎	◎
各専攻系間の共通カリキュラム科目	ヒューマンサイエンス(形態と機能)		◎		○	○	1. 科学的、論理的な理解、説明ができる。 2. 細胞の基本構造と機能を説明できる。 3. 遺伝子情報の仕組みを理解できる。 4. 膜輸送、情報伝達の仕組みを説明できる。
	微生物・免疫学実習		◎			○	微生物学及び免疫学の基本的手技を習得する。
	臨床医科学概論		◎			○	循環器、呼吸器、消化器、神経・筋、内分泌・代謝、血液の各臨床領域における代表的な疾病につき、発生機序および原因となる遺伝子などの異常、そして各々の疾患の病態生理を理解させ、最新の診断および治療法の理論と実践を学ばせる。
保健学専攻共通科目	チーム医療特論		○	○	○	○	他の専門職種への理解を深める。コミュニケーションの重要性を理解する。自らの職種の役割、責任を自覚する。
	保健学特論		◎				保健科学の理念や研究課題について理解する。
	臨床腫瘍学概論		○			◎	がんの病態生理、がん治療について理解を深めると共に、がん医療に関する社会的・倫理的課題について考察を深める。
	国際医療実践英語演習			◎			The aim is to learn English appropriate for practicing international health care activities.
	脳と神経学概論		◎	○	◎	○	脳神経外科疾患と神経内科疾患について、診断・検査・治療について最新の動向を理解し看護に役立てる。
	脳と神経学評価方法論		◎	○	○	○	脳神経の複雑なメカニズムとその病態の身体・心理社会面を含めた包括的アセスメント・評価や査定に関して、理解を深め、看護実践の場で活用できる。

科目名		ディプロマ・ポリシー	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働能力】	【3. 豊かな人間力と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
			専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。	
指定科目A	看護学領域	看護研究方法論	◎	○	◎	◎	1.看護研究の必要性と意義を理解する 2.質的研究に関する研究方法について理解できる 3.事例研究に関する研究方法について理解できる 4.実験研究に関する研究方法について理解できる 5.看護研究において文献を活用することができる 6.調査研究の方法論について理解できる 7.研究計画書の書き方について理解できる 8.研究論文のクリティークを行うことができる 9.研究における倫理的配慮について理解することができる
		看護教育学	◎		○	○	看護教育・継続教育の歴史の変遷を理解する 専門看護師としての看護現場の質を高めるための継続教育の在り方を考察する 専門看護師に期待される看護教育力を養う
		看護倫理	◎	○	◎	○	看護倫理に関する重要な用語や概念に関して理解する。看護実践で展開されている倫理的問題について理解し、看護者としての対応について学ぶ。看護者として医療現場における倫理的問題に関する感受性を高める。
		看護管理学	◎		○	○	高度実践看護師に期待されている臨床現場の変革者として、また保健医療福祉に携わる人々の間の調整者として役割が果たせるよう、看護管理についての基本と実際について講義、ディスカッション、演習により学習を深める。
		コンサルテーション論	◎		◎		1.コンサルテーションの概念を理解する 2.専門看護師が行うコンサルテーションの目的と意義について理解する 3.コンサルテーション展開のプロセスを理解する 4.コンサルテーションの展開に活用するカウンセリング技法を伝えるようになる 5.専門看護師によるコンサルテーションの実際事例から、プロセスおよび成果の分析・評価ができる 6.専門看護師によるコンサルテーションの意義を考察すると共に、自己の課題を明確にできる
		看護実証研究論	◎	○	○	◎	調査や実験に基づく分析結果を読みとるために必要な統計学の基礎的な知識を講義する。また履修者が自分で分析を行うと考えると、調査や実験の仮説を考慮して、基本的・応用的な分析手法を扱う。
	看護学指導演習	○		○		1.看護基礎教育のカリキュラムについて理解できる 2.学生に看護の知識・技術・ケア態度を効果的に指導する教育技法について説明できる 3.臨地実習において主体的な学習を支援する指導ができる 4.臨地実習を効果的に進めるための人的・物的な学習環境調整ができる 5.看護の教育研究者としての自らの演習をリフレクションし、自己の課題を明確にできる 6.看護基礎教育における今日的な課題と展望について考察することができる	
指定科目B	看護学領域	ヘルスアセスメント特論	○			◎	身体状態を査定し、適切な臨床判断を行うために必要な知識と技術について学修を深め、高度なアセスメント能力を習得する。
		病態生理学特論	◎	◎			エビデンスに基づいたより高度な看護実践ができるよう対象の病態生理学的変化を解釈、判断するために必要な知識と技術を身につける。
		臨床薬理学特論	◎	◎			必要な臨床薬理学の基本を学ぶ、薬剤使用の判断、投与後の患者のモニタリング、生活調整、回復力の促進、患者の服薬管理能力の向上を図るための知識・技術について学修し、緊急応用処置や症状調整、慢性疾患管理などを中心とした臨床現場で適正かつ効果的に薬を使用・管理する能力を身につける。
		看護技術学特論Ⅰ	○	○	○	○	1.看護の知識開発についての看護教育、研究実践における哲学や理論の影響を説明できる。 2.様々な教育、研究、実践の課題について、看護理論の影響を議論できる。 3.看護学の哲学的な価値論(価値)を説明できる。
		看護技術学特論Ⅱ	○	○	○	○	1.学問としての看護学の知識、学問と専門職の特徴に基づく専門職について説明できる。 2.理論開発と看護のパラダイムとメタパラダイムの影響について説明できる。 3.看護学と看護の歴史的発展について検討できる。
		看護技術学演習	○	○	○	○	1.大学院生の関心領域を中心に、看護技術学におけるさまざまな課題に焦点をあて文献検討ができる。 2.看護の質を高めるための看護技術の諸要素を研究を通して理解できる。
		看護教育学特論Ⅰ	◎		○	○	1.看護教育に関連する諸理論が理解できる。 2.看護学生の学習者としての特徴が理解できる。 3.看護教育の現状と課題について考察する。
		看護教育学特論Ⅱ	◎		○	○	生涯学習に関連する理論を知る。 生涯学習における学習者の特徴を理解する。 看護における生涯学習の意義について理解する。 看護における生涯学習の状況と課題を理解する。 効果的な看護基礎教育の方法を検討する。 効果的な看護の卒後教育の方法を検討する。
		看護教育学演習	◎	○	○	◎	看護研究に関する文献を批判的に検討し、問題点や課題を明らかにする。 自らの研究テーマに関連するレビューを作成する。

科目名	ディプロマ・ポリシー	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働能力】	【3. 豊かな人間力と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
		専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。	
	看護アウトカム管理学特論 I	○	○	○	○	1.文献検討の方法が理解できる 2.専門職としての看護について文献を通して理解できる 3.学問としての看護学について文献を通して理解できる 4.効果的なプレゼンテーションの方法について理解できる 5.効果的プレゼンテーションを作成できる 6.科学論文を検索できる 7.量的研究の特徴について理解できる 8.質的研究の特徴について理解できる 9.先行研究のレビューの方法が理解できる 10.共同研究のあり方が理解できる
	看護アウトカム管理学特論 II	○	○	◎	○	1.アウトカム管理の本質と特徴を理解する。 2.アウトカム管理の視点からみた保健医療福祉の動向を理解する。 3.地域・在宅・助産所・施設など看護実践の場におけるアウトカム管理の実践および課題を精神疾患・心疾患・糖尿病などの事例を用いて理解する。 4.看護に関連するアウトカム管理の諸理論や管理技法を実践に即して理解し探求する。 5.看護の質向上に寄与するアウトカム管理に関する研究技法を探求する。
	看護アウトカム管理学演習	○	○	○	○	大学院生の関心領域を中心に、看護管理学におけるさまざまな課題に焦点をあて文献検討ができる。 看護の質を高めるための看護管理実践の諸要素を研究を通して理解できる。
	回復支援看護学特論 I	◎	◎	○	○	人々が健康な生活を維持するために看護職の果たす役割を見出す
	回復支援看護学特論 II	◎	◎	○	○	在院日数が短縮化される動きのなかで、病気や障害により健康生活の破綻をきたし医療的治療が必要な患者の重篤化を回避するためのモニタリングや評価方法を理解するとともに、退院後の生活を見据えたトータルなかかわりや回復支援のためのケア方法が理解できる。
	回復支援看護学演習	◎	◎	○	○	在院日数が短縮化される動きのなかで、療養回復支援が必要な対象者の健康上の問題や課題と、それに対する看護介入に関する文献を精読し、研究への適応について討議する。
	生活調整特論	◎	○	○	○	脳神経疾患患者を中心に疾患や障害を持った人々に適応される医療・福祉の制度や体制とその革新方法、および治療や療養環境・地域支援など、質の高い生活にむけて調整する方策や活用について理解し活用できる。
	脳神経看護学特論 I	◎	○	○	○	脳神経患者とその家族に対して卓越した看護を実践する上で基盤となる主要理論・概念とその活用について探求し、活用できる。
	脳神経看護学特論 II	◎	○	◎	○	脳神経疾患患者と家族の生活の再構築という視点に立った予防、重症・救急に伴う専門的看護支援、自己管理支援、リハビリテーション看護などに関する支援技術やその開発について探求し、活用できる。
	脳神経看護学演習	◎	○	◎	○	1.脳卒中の発症予防、重症・救急に伴う専門的看護支援、自己管理支援、回復促進看護などに関する支援技術やその開発について探求できる。 2.神経疾患を原因とした運動機害の病態、アセスメント、悪化予防支援などに関する支援技術やその開発について探求できる。
	脳神経看護学実習 I	○	○	○	◎	1.複雑な健康問題をもつ患者とその家族に対して、質の高い卓越した看護を提供するために必要な、高度な知識と臨床判断、技術力の習熟かを旨とする。また脳神経領域のチーム医療が十分機能し活性化するための高度実践看護職の役割をまなび、必要な問題解決力や調整力、指導力を養う。 2.脳神経看護の分野において、専門看護師に期待される役割である実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究について実践できる。
	脳神経看護学実習 II	○	○	○	◎	脳神経看護実習 I および脳神経治療援助論実習 I・II の学習をもとに、自らの関心領域について、より質の高い看護実践力を養うことができる。 また、脳神経看護専門看護師として、病院地域における連携、チーム医療の実践方法がわかる。 さらに、専門看護師としての役割開発を実践するチャレンジ精神を養うことができる。
	脳神経治療援助論実習	○	○	○	◎	脳神経疾患の基本的な医学的評価・判断に基づく薬物治療や医療処置の管理について、実践を通してわかる。
	ストレス緩和ケア看護学特論 I	◎	○	◎		1.がんの治療・療養過程にある患者や家族に適用できる看護理論の特徴と有用性について理解する 2.がん看護領域における主要な理論(危機理論、ストレスコーピング、セルフケア理論、悲嘆など)の主要概念や前提、特徴を理解する。 3.主要な理論を看護現象に適用し、その有用性や限界を考察できる。 4.がん看護に関する新しい理論や概念の生成に関する文献をクリティクし、有用性を考察できる。

科目名	ディプロマ・ポリシー	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働能力】	【3. 豊かな人間力と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
		専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技能を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。	
	ストレス緩和ケア看護学特論Ⅱ	◎	○	◎		1.がん看護専門看護師に期待される6つの役割について理解できる 2.がん治療（手術療法、薬物療法、放射線療法）の原理と生体侵襲を理解し、エビデンスに基づいた看護ケアの意義を説明できる 3.がん治療・療養の意思決定過程を理解し、事例分析を通して支援のあり方を考察できる 4.緩和ケアの概念と援助方法について説明できる 5.在宅における緩和ケアの特徴を理解し、事例分析を通して支援のあり方について考察できる 6.がん患者を地域につなぐ調整・相談支援について理解し、がん看護専門看護師の役割について説明することができる 7.がんチーム医療の実際を知り、チームにおけるがん看護専門看護師の役割を考察できる
	ストレス緩和ケア看護学演習	◎	○	◎	○	①ストレス緩和ケアに関する看護の課題について、論理的、科学的な方法により追求する方法を学習する。特に、文献を批判的に読み活用する力を養う。②①を通して、自己の研究課題と方法論の明確化に繋げる。
	がん看護学特論Ⅰ	◎	○	◎		1.がんリハビリテーション看護の概念と目標を理解できる 2.肺がん治療による器質的機能的変化と生活への影響を理解し、日常性回復のための援助について考察できる 3.消化器がん治療による器質的機能的変化と生活への影響を理解し、日常性回復のための援助について考察できる 4.子宮がん治療による器質的機能的変化と生活への影響を理解し、日常性回復のための援助について考察できる 5.頭頸部がん治療による器質的機能的変化と生活への影響を理解し、日常性回復のための援助について考察できる 6.乳がん治療による器質的機能的変化と生活への影響を理解し、日常性回復のための援助について考察できる 7.緩和ケアが主体となる時期の患者に対するリハビリテーションの目的とその特徴を説明できる 8.がんリハビリテーションを促進するための看護ケア提供者としてのあり方について考察できる
	がん看護学特論Ⅱ	◎	○	◎		1.がん薬物療法の目的と治療過程を理解できる 2.抗がん剤の安全な取り扱いとリスク管理について説明できる 3.急性の副作用症状とその対応方法について説明できる 4.主要な有害事象の機序と予防・対応方法を理解し、セルフケア支援について説明できる 5.主な疾患の標準的治療と治療効果について説明できる 6.がん薬物療法を受ける患者の意思決定支援について、事例分析を通して考察できる
	がん看護学演習	◎	○	◎	○	<がんリハビリテーション看護> 1.がんリハビリテーション看護のbest practiceについて説明できる 2.がんリハビリテーション看護に関する研究論文についてEBPの視点からクリティークすることができる 3.がんリハビリテーションの観点からリンパ浮腫予防のための看護支援について説明できる 4.がん患者に発生するリンパ浮腫の機序と対応方法について説明できる 5.リンパ浮腫に対する予防指導および複合的治療の基本技術を実施できる 6.がんリハビリテーションを促進するためのがん看護専門看護師に役割を考察できる <がん薬物療法看護> 1.がん薬物療法看護のbest practiceについて説明できる 2.がん薬物療法看護に関する研究論文についてEBPの視点からクリティークすることができる 3.がん薬物療法を受ける患者に対するコンサルテーションの特徴と進め方が説明できる 4.がん薬物療法を受ける患者に対する倫理調整の特徴と進め方が説明できる 5.がん薬物療法を受ける患者に対するコーディネーションの特徴と進め方が説明できる 6.がん薬物療法を受ける患者に対するケア改善に向けて提案できる
	がん看護学実習Ⅰ	◎	◎	◎	○	1)複雑な健康問題を抱えるがん患者の身体的、心理的、社会的およびスピリチュアルな健康問題をアセスメントできる。 2)看護の知識・技術とケアの知識を用いて、エビデンスに基づいた高度な看護実践を行うことができる。 3)がん患者・家族のケアに看護理論を活用できる。 4)看護チームと連携し、周囲の医療者を巻き込みながら、効果的な看護実践ができる。 5)家族のニーズや危機状況をアセスメントし、危機回避や悲嘆過程の促進を目指した看護を実践できる。 6)患者・家族がよりよい医療やケアを受けられるようコンサルテーションやコーディネーションを行うことができる。 7)careとcureを統合した高度実践看護師としての役割拡大について探求できる。

科目名	ディプロマ・ポリシー	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働能力】	【3. 豊かな人間力と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
		専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。	
看護学領域	がん看護学実習Ⅱ	◎	◎	◎	○	1)がん看護専門看護師としての、高度な看護実践について学ぶ。 2)がん看護専門看護師としての、スタッフに対する教育方法・内容、企画運営方法について理解できる。 3)がん看護専門看護師としての、スタッフが直面している看護上の問題やがん患者の問題解決方法などのコンサルテーション方法について理解できる。 4)がん看護専門看護師としての、がん患者に対するよりよい医療の提供のための多職種間の調整方法について理解できる。 5)がん看護専門看護師としての、研究への取り組みや研究活動について理解できる。 6)がん看護専門看護師としての、がん患者の人権擁護の姿勢や医療チームにおける倫理調整の方法について理解できる。 7)がん看護専門看護師として、医療現場における開発的役割をとるための自己研鑽や能力開発の在り方について考察できる。 ※がん看護学実習Ⅰでの課題等を踏まえて具体的に目的・目標を定めること
	がん看護学実習Ⅲ	◎	◎	◎	○	1)高度実践看護師としての高度な知識・技術と診療の知識・技術を基に、複雑な問題をもつがん患者に対して高度な臨床判断ができる。 2)より複雑で解決困難な問題をもつがん患者・家族に対して、ケアとキュアを統合した知識・技術を駆使して、看護実践を展開することができる。 3)チーム医療が効果的に働くよう、他職種と連携した支援の調整ができる。 4)がん患者の治療・療養をめぐる倫理的問題や倫理的ジレンマを見極め、倫理調整することができる。 5)患者に対する看護がより効果的に提供できるよう、現場の看護スタッフと協議し改善に向けた教育的働きかけができる。 6)看護職者を含むケア提供者に対して、コンサルテーションを行うことができる。 7)地域医療連携部門における退院調整やがん相談などの実践と課題について理解することができる。 8)がん患者の治療施設から地域へ円滑に移行できるよう、地域医療連携部門と連携し、退院を調整することができる。 9)他職種を含めたカンファレンス、事例検討会を企画・開催することができる。 10)がん看護専門看護師の立場から、地域医療連携の在り方を考察できる。
	がん治療援助論実習	◎	◎	◎	○	1)がん治療医の指導のもと、がん患者の診察を行い、フィジカルアセスメントの技術を修得することができる。 2)診察結果や検査所見から医学診断し治療方針を導く実践思考過程を理解できる。 3)各治療過程にある患者の有害事象や合併症予防など医学的身体管理方法を理解し、患者の症状や兆候のアセスメントができる。 4)治療の効果判定方法を理解し、治療効果の評価ができる。 5)がん治療が患者の生活に与える影響を病態生理学的、臨床薬理的、がん治療学的視点から解釈・理解し、医療チームが連携した安全かつ効果的な支援方法を検討できる。 6)各治療完遂あるいは効果的な治療遂行のための高度実践看護師の役割開発について考察できる。
	地域看護学特論Ⅰ	◎	○	○	○	地域で働く看護職に共通して必要である、個人・集団および組織、コミュニティに関する概念・理論を学習し、地域における看護職の役割が見いだせること、地域における様々な対象への効果的な支援方法が考えられることを到達目標とする。
	地域看護学特論Ⅱ	◎	○	○	○	地域における活動技術について理解できる。 地域における活動の課題について理解できる。 今後の地域における活動の方向性について考えることができる。
	地域看護学演習	○	○	○	◎	地域看護学の視点から履修者の関心のあるテーマで研究計画書を作成することができる。
	小児看護学特論Ⅰ	◎	○	○	○	1. 子どもと家族の健康問題を考えるうえでの主要概念を理解できる。 2. 小児看護に関連する理論について理解できる。 3. 子どもと家族の健康問題について国内外における主要な課題を考察できる。
	小児看護学特論Ⅱ	◎	○	○	○	1. 子どもの発達段階、健康レベルに応じた効果的な看護援助を行うためのアセスメントおよび援助方法について理解できる。 2. 子どもと家族を取り巻く医療、福祉、教育の連携の在り方について考察できる。
	小児看護学演習	○	○	○	◎	理論や文献を活用して関心のある領域における子どもと家族の健康問題について課題を明らかにし、課題解決、看護援助を考察できる。
	学校保健学特論Ⅰ	○				児童・生徒の健康・保健問題を教育の視点から考察することによって、学校保健の意義や教育実践のあり方を理解する。
	学校保健学特論Ⅱ				◎	学校保健領域における養護実践のあり方を理解し、実践事例における養護活動の構造を論理的に説明することができる。また養護実践の基盤となる看護技術及び理論の活用について、自ら思考する能力を養う。

科目名	ディプロマ・ポリシー	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働能力】	【3. 豊かな人間力と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
		専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。	
専門科目	学校保健学演習				○	学校保健領域における事象を、論理的に説明する事ができる。またそのための関連領域の理論や、統計手法及び質的分析法を用いた検証方法について理解する。
	精神看護学特論Ⅰ	◎	○	○		1. 精神看護学の実践の基盤となる理論や概念を学び、それを基盤に患者理解を深める。 2. 実践場面で出会う主な精神疾患の診断(ICDおよびDSM)と病態、最新の治療法を理解する。
	精神看護学特論Ⅱ	◎	○	○		1. 精神保健看護の歴史と現状の理解を深め、看護実践への活用方法、課題を検討できる。 2. 精神看護に関連する理論と概念を活用し、精神疾患をもつ人と家族のアセスメント、看護援助が検討できる。 3. 地域ケアに関連する理論と概念を学び、精神疾患をもつ人と家族のもっている力を尊重した看護援助が検討できる。
	精神看護学演習	○	○	◎		理論や文献を活用して、学生自身が関心がある領域における精神疾患をもつ人と家族の健康問題について課題を明らかにし、看護援助を考察できる。
	支援看護学特別研究	◎	○	◎	◎	各自の関心領域の研究課題について、データ収集と分析に取り組み、修士論文としてまとめ、発表を行う。到達目標として、以下の1～6のステップを踏んだ研究方法に取り組む。 1. 明確で信頼性と妥当性のある研究方法を実施できる。 2. 適切な分析手法を用いることができる。 3. 研究結果は、研究目的を反映し、データ分析に基づき、論理的に述べることができる。 4. 考察は、結果を踏まえて文献や自分の考えを適切に導き出し、一貫性がある。先行文献を十分に検討している。 5. 導きだされた研究結果が、どのように看護実践に活用できるかを述べることができる。 6. 研究計画に基づき倫理的配慮を遂行することができる。
	支援看護学特別課題研究	○		○	◎	自らの関心領域において、研究課題を明確化し、研究目的に適した研究方法を用いてデータ収集・分析を行い、論文としてまとめることができる。
	こころの保健学特論Ⅰ	◎	○	○	○	自閉症スペクトラム障害、注意欠如多動性障害、てんかん、不登校(ひきこもり)、虐待、愛着障害などの事例における身体・心理・精神症状、ならびに行動上の問題が、家庭や学校における人間関係性の病理に基因するものであることを理解する。こころの問題を有する子どもだけを治療の対象者と考えるのではなく、子どもと相互関係にある人のかかわり方にも注意し、こころの問題を関係性の障害の視点からとらえ直す。関係性の変化がこころの問題の改善につながることを理解する。
	こころの保健学特論Ⅱ	○				乳幼児期・児童思春期の精神発達に関する知識を習得し、実際の支援に生かせるようになる
	こころの保健学演習	○		○	○	心理的ケアや支援に必要な理論を習得し、実践に応用できるようになること。
	臨床腫瘍保健学特論Ⅰ	○			◎	患者のQOLをpatient-reported outcome(PRO)評価に準じて検討する方法に精通する。
	臨床腫瘍保健学特論Ⅱ	○			◎	がん患者のQOLをpatient-reported outcome(PRO)評価に準じて検討する方法を修得する。
	臨床腫瘍保健学演習	○			◎	国際的に有名なpatient-reported outcome(PRO)-QOLを使用した研究論文(英文)を抄読し、議論し、がん患者のPRO-QOLを反映する方法に精通する。
	保健学特別研究	○			◎	国際的に有名なpatient-reported outcome(PRO)-QOLを使用した研究論文(英文)を抄読し、議論し、がん患者のPRO-QOLを反映する方法に精通する。
	ウイメンズヘルス・助産学特論	◎	○	○	○	ウイメンズヘルス・助産実践における根拠に基づく実践の現状から課題を明らかにし、課題探求の方策を検討することができる。
	女性支援看護学特論	◎	○	◎	○	女性の健康問題を考える上での主要概念について理解し、ウイメンズヘルスに関わる課題に適用することができる。
	女性支援看護学演習Ⅰ	◎	○	○	○	・女性のライフサイクルに関連して生じる健康問題にかかわる概念を理解する。 ・概念を通じて理解できた現象をもとに、その健康問題を分析し、解消できるような看護方策を考えることができる。
	女性支援看護学演習Ⅱ	◎	○	○	◎	既存の研究論文を適切に評価し、研究目的に応じた研究手法を理解し、概念枠組み・研究枠組みを設定することができる。

科目名	ディプロマ・ポリシー	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働能力】	【3. 豊かな人間力と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
		専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。	
	生殖・更年期保健学特論	◎			○	1) 思春期における心や体の問題が周産期女性の健康に及ぼす影響について理解できる 2) 不妊(特に高齢不妊)という病態が妊娠に与える身体的・精神的影響について理解できる 3) 妊娠・分娩・産褥期にみられた病態が周閉経期女性に及ぼす影響ならびにその後の疾患の発生に与える影響について理解できる 4) 健康問題について、ライフステージを越えた縦断的視点について理解できる
	生殖・更年期保健学演習	○			◎	思春期、性成熟期、妊娠・分娩・産褥期、周閉経期、老年期といったそれぞれのライフステージにおける健康問題の関連性について理解できる
	助産学特論Ⅰ(助産概論・母子保健学)	◎	○	○	◎	1.助産の歴史・変遷、助産の倫理と意義と役割を理解し、プロフェッションとしての責務が説明できる。 2.助産教育の現状と動向を理解し、教育のあるべき姿を検討することができる。 3.母子保健の変遷と現状を理解し、質の高い母子保健サービスを提供するための方略を検討することができる。
	助産学特論Ⅱ(生命倫理学)	◎		◎		1.日本と諸外国における生命倫理の現状と倫理的課題を理解し、生命倫理のあり様を考察することができる。 2.生殖医療の基礎と臨床を理解し、生殖補助医療・相談のあり様を検討することができる。 3.遺伝の基礎と臨床を理解し、遺伝医療・相談のあり様を検討することができる。
	助産学特論Ⅲ(母性心理・社会学)	◎		○		妊産婦のメンタルヘルスの現状を理解し、周産期に特徴的な疾患・症状の病態・治療・対応が説明できる。妊産婦のメンタル面への支援に適用される理論が説明できる。 不妊・遺伝カウンセリングを受ける対象・家族への精神的支援の意義が説明できる。
	助産学特論演習Ⅰ	◎			◎	1.理論、モデル、概念について理解し、研究設計をたてることことができる。 2.エビデンスに基づいた実践の重要性を理解し、エビデンスを追求するための手法が説明できる。
	助産学特論演習Ⅱ	◎			◎	既存の研究論文を適切に分析することができる。 研究目的に応じた研究手法を理解し、概念枠組み・研究枠組みを設定することができる。
	助産実践学Ⅰ(形態機能・病理病態学)	◎		○		女性生殖器の構造と機能についての基礎的知識を理解し説明できる。 妊娠・分娩に伴う母体の変化と影響要因や主な徴候の原因を理解し説明できる。 上記理解のもとに助産実践の根拠が説明できる。
	助産実践学Ⅱ(病態薬理学)	◎		○		女性のライフステージの健康問題(不妊、更年期など)や、周産期主要症候の病態・診断を理解し、対症的薬物療法と新生児に通常用いられる薬物について薬物の適用と作用機序、副作用について説明できる。
	助産実践学Ⅲ(病態検査学)	◎		○		妊娠・分娩・産褥期や胎児・新生児期の病態生理と、必要とされる検査、治療を理解し、正常逸脱の判断(基準)について説明できる。
	助産実践学Ⅳ(診断・実践学)	◎		○		妊娠・分娩・産褥・新生児期・乳児期にある対象の、正常な経過を判断するためのスクリーニング・アセスメント指標が説明できる。
	助産実践学Ⅴ(助産管理学)	◎	○	○		助産業務の管理・運用に必要な基本的概念及び他職種との連携のための調整やコンサルテーションなど、基礎的管理能力習得のための知識を修得する。
	助産実践学演習Ⅰ	◎		○		到達レベルは、本学助産実践コース修了時の到達目標と到達度 参照 ハイリスクスクリーニング・リスクアセスメントができる。 周産期ハイリスク状態のアセスメントと治療処置を理解し、ハイリスク状態にある母児への救急対応ができる。 今後より強化されるべき助産師の役割と機能を見据えたアセスメント技術が実践できる。
	助産実践学演習Ⅱ	◎		○		到達レベルは、本学大学院修了時の到達目標と到達度 参照 思春期にある対象を理解し、思春期の健康教育が実践できる。 対象者の特性を理解し、親教育が実践できる。 妊婦・褥婦・胎児・新生児・乳児の健康診査ができる。 正常な分娩経過を理解し、分娩期各期の診断とケア(分娩介助含む)が展開できる。 家族計画の実際を理解し、各種受胎調節法を説明し、指導できる。
	助産実践学実習Ⅰ	◎	○	◎		女性のニーズを妊産婦サービスの中心に置いた助産師の活動展開への理解を深め、専門職者としての助産師のあり方と、助産師が自律して行う業務(役割)を学ぶ。 女性との協力関係の中で個々のニーズに対応したケアが提供できるよう、最新の知識、技術の学習を基盤に、科学的・倫理的判断力の基に、助産実践力を高め、助産師としてのアイデンティティを高める。
	助産実践学実習Ⅱ	◎	○	◎		母児両者の正常逸脱発生予防とその早期発見、正常逸脱時の対応と支援の学習を基盤に、特殊な状況にある妊産婦・新生児、家族に必要とされる支援を修得する。

科目名	ディプロマ・ポリシー	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働能力】	【3. 豊かな人間力と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
		専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。	
	助産実践学実習Ⅲ	◎	○	◎		遺伝相談・不妊相談における相談の特性とそのプロセスを理解し、助産師の役割を遂行するために必要な倫理的対応と知識・技法を修得する。
	助産学実習	◎	○	◎		・正常過程にある妊産婦・新生児・乳幼児の生理を理解し、妊娠・分娩・育児が人生における有意義な体験（出来事）となるよう、また、家族との結合がこの体験を通していっそう緊密になるように、助産診断・ケアを展開し、継続的個別ケアを実践するための基本技術、ならびに技術・技能のもとにある知識の理解と態度を修得する。 ・女性のライフサイクルの過程で生じる健康上の課題を理解し、社会的対応を含めた支援を修得する。
	助産学特別研究	○			◎	実践上の問題や課題を明らかにし、その問題を研究課題として発展させ、研究プロセスに沿って研究を遂行し論文を作成する。
医用情報科学領域	先端医用画像情報学・先端数理統計学	◎	○		◎	パターン認識の数理を学び、理解する。 機械学習を医用画像・医用情報へ応用するための代表的な手法を学び、理解する。
	先端医用画像情報学・先端数理統計学演習	◎	○		◎	研究論文や大学院レベルの英文教科書を輪講し、その内容を理解する。 自らの研究に応用する／発展させる。
	先端医用画像機器工学	◎	○			医用画像機器の原理に用いられる物理と数理を理解できる。 強度変調放射線治療計画の数理を理解できる。
	先端医用画像機器工学演習	◎	○		○	先端医用画像機器工学に関する論文を読み、発表・討論を行うことができる。
	先端放射分析化学	○			◎	放射化学及び分析化学の基礎概念を確実に理解し、核・放射化学的な先進的な研究シーズを発掘することができる。
	先端放射分析化学演習	○			◎	核・放射化学の研究域における基礎から応用に広がる先進的な研究に触れ、自らの研究テーマに役立つシーズを作り上げることができる。
	放射線障害分子医学	◎			◎	放射線生物作用の基礎的現象・理論、最近の放射線生物学研究の成果とその意義、および放射線治療に関する放射線生物学的事項および保健物理学的事項について説明し、議論できる。
	放射線障害分子医学演習	◎			◎	英文論文を読み、理解し、問題点をまとめ、発表討論できる。
	脳機能画像解析学	○		○	◎	神経科学の基礎を説明することができる。 脳機能計測装置の測定原理を説明することができる。 脳機能の解析方法を説明することができる。
	脳機能画像解析学演習	○		○	◎	脳機能画像解析ソフトウェアの処理内容が理解できる。 脳機能画像解析ソフトウェアを使いこなすことができる。 脳機能画像解析ソフトウェアを研究に役立てることができる。
	放射線腫瘍学・放射線治療物理学	◎			○	放射線療法の対象となる疾患や病態とその治療法を理解し、適切な治療計画を作成できる。
	放射線腫瘍学・放射線治療物理学演習	◎			○	放射線治療装置の操作、3次元放射線治療計画が施行できる。
	医用画像解析学	◎		○	○	種々の画像影響因子を理解する。各臓器に特異的な各種撮影手法および解析手法を理解する
	医用画像解析学演習	◎		○	○	臨床画像における病態解析に有用な情報の識別方法、検査手法につき理解する
	代謝・機能画像情報解析学	◎			○	最近の機能検査と代謝評価の方法と機序について説明できる。
	代謝・機能画像情報解析学演習	◎			◎	実際のデータ等を利用して、画像情報から代謝および機能情報を抽出し、可視化する方法を習得する。
	先端医用画像評価学	○	○	○	○	さまざまなモダリティで得る画像に対する、 1. 物理的な評価法を説明できる。 2. 視覚的な評価法を説明できる。 3. 画像の特性を把握したうえで、診断に役立つ画像に必要なことは何か説明できる。
先端医用画像評価学演習	○	○	○	○	講義で修得したものを発展させる。	
医用情報科学特別研究	○	○	○	◎	医用情報科学領域の研究課題に主体的に取り組み、修士論文を作成し、研究内容を説明できる能力を修得させる。	

科目名		ディプロマ・ポリシー	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働能力】	【3. 豊かな人間力と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
			専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技術を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。	
医用検査学領域	生体機能解析学特論	◎	○	◎	○	○	内分泌代謝疾患における病態の解析や新規治療法開発に関する研究課題に取り組み、研究内容を理解・議論できる医療技術者を養成する。
	生体機能解析学演習	◎	○	○	○	○	ホルモンおよび代謝異常症に対する基礎および臨床研究に取り組み、新しい臨床検査技術や診断法の基礎的技術を理解する。
	分析医学特論	◎	○	○	○	◎	病態発症の生化学的現象について理解し、分子メカニズムと形態変化を評価できる新しい診断法、治療法の開発に関する知識を修得する。
	分析医学演習	◎	○	○	○	◎	腎疾患および血管病変について研究論文を読み、討論を行い、新規性のある研究計画を立て基礎研究に取り組む能力と技術を修得する。
	病理解析学特論	◎	○	○	○	○	病気の原因と発生機序について細胞レベル、組織レベル、個体レベルの変化と関連させて理解できることを目標とする。
	病理解析学演習	○	○	○	○	◎	病理形態学的研究の基礎知識を得ると共に、新しい病理組織学的検査法の評価や病理解析における意義を知ることを目指す。
	細胞・免疫解析学特論	◎	○	○	○	◎	臨床・研究で活用できる細胞・免疫解析学の専門的知識・免疫学的解析法や遺伝子診断法の基礎的技術を理解する。
	細胞・免疫解析学演習	○	○	○	○	◎	細胞・免疫解析学の専門的知識および基本的な解析法を理解し、さらに研究の進め方や発表・討論能力を養う。
	微生物・遺伝子解析学特論	◎	○	○	○	○	主要な病原細菌の病原遺伝子発現機構および遺伝子検査法の原理について理解し、新しい臨床検査技術開発のための知識を修得する。
	微生物・遺伝子解析学演習	◎	○	○	○	○	細菌の病原性および遺伝子検査に関する国際的な研究論文を読み、感染制御・遺伝子検査に関する研究方法について理解する。
	生殖補助医療学特論	◎	○	○	○	○	不妊症について、その原因、診断、治療法が説明できる。受精現象について説明できる。生殖補助医療を実施するために必要な培養法、凍結保存法、顕微授精法に関する基礎知識を理解している。生殖生理と関連する内分泌について説明できる。
	生殖補助医療学演習	○	○	○	○	◎	仮説を立て、研究計画を立案できる
	腫瘍制御学特論	○	○	○	○	◎	悪性腫瘍の生物学的特性(発癌・浸潤・転移など)の基本的知識を修得し、その知識に基づいた悪性腫瘍の新しい診断及び治療法の開発を目指す。
	腫瘍制御学演習	○	○	○	○	◎	悪性腫瘍の生物学的特性や新しい診断及び治療法について書かれた英語論文を読み、議論し、さらに効果的な診断法や治療法を考案し、治療計画を作成する能力を身につける。
	細胞・分子機能解析学特論	○	○	○	○	○	生体内分子機能、特に酸化、抗酸化機能に関連する機構、病態についての基礎的あるいは臨床的知識を修得する。
	細胞・分子機能解析学演習	○	○	○	○	○	生体分子機能、特に酸化、抗酸化機能に関連する機構、病態について医学・医用検査学領域における解析や評価ができる能力を養う。
	先端医療技術・支援学特別研究	○	○	○	○	○	高度化した疾病の診断や病態解析を行う高度専門家教育を目標とする。
医学物理学関連科目	医用情報科学領域	放射線治療品質管理学特論	◎	○	○	○	放射線治療に用いられる高エネルギー放射線の精度管理に関する知識を修得する。
		医用物理学特論Ⅰ	◎	○	○	◎	1. 放射線科学における電磁気学の重要性を理解する。 2. 電磁気学の標準的な問題を解くことができる。 3. これまで学んだ学問を、より深い視点から眺めることができる能力を獲得する。
		医用物理学特論Ⅱ	◎	○	○	◎	1. 放射線科学が量子力学の基盤に立っていることを理解する。 2. 量子力学の標準的な問題を解くことができる。 3. これまで学んだ学問を、より深い視点から眺めることができる視点を獲得する。

科目名		ディプロマ・ポリシー	【1. 高度な理解力と幅広い知識】	【2. 国際的なコミュニケーション能力と協働力】	【3. 豊かな人間力と高い倫理観】	【4. 実践的な研究能力】	科目の教育目標
			専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。	最先端の専門的技能を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。	豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。	医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。	
	医用物理学特論Ⅲ		◎	○		◎	<ul style="list-style-type: none"> 1. 放射線科学が熱統計力学の基盤に立っていることを理解する。 2. 熱統計力学の標準的な問題を解くことができる能力を身につける。 3. これまで学んできた様々な学問を、より深いレベルから眺められる視点を獲得する。